

教育研究評議会議事録（第177回）

日 時：平成31年 3月28日（木） 15時00分～16時44分

場 所：事務局2階 第一会議室

出席者：岩淵、小川、丸山、菅原、佐々木、吉川、上村、八代、横山、遠藤、船崎、高畑、
佐藤、比屋根、関野、斎藤、宮本、松岡、山本（昭）、宇佐美、田代、菊地、藤代、
萩原、倉島

欠席者：喜多、長田、山本（欣）

配付資料

議題1	平成31年度国立大学法人岩手大学年度計画（案）の概要について
議題2	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
報告1	国立大学法人岩手大学役員等体制について
報告2	平成31年度における学長の補佐体制について
報告3-1	教員人事に関する報告について（教員養成支援センター）
報告3-2	教員人事に関する報告について（教育学研究科）
報告3-3	教員人事に関する報告について（理工学部）
報告3-4	教員人事に関する報告について（理工学部）
報告4	役員会報告
報告5	経営協議会報告
報告6	学長・副学長会議報告
報告7	平成31年度岩手大学一般入試の出願状況
報告8	平成30年度入試委員会（第6回）記録（案）
報告9-1	国立大学改革方針について（国立大学協会総会 H31.3.14）
報告9-2	18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置（文部科学省 H31.3.18）

議事に先立ち、前回議事録について原案のとおり議事録を確定することとした。

議 題

1．平成31年度国立大学法人岩手大学年度計画について

学長から、平成31年度国立大学法人岩手大学年度計画について諮る旨が述べられ、次いで、小川理事から、資料に基づき、年度計画の概要として主な項目について説明があり、一部修正し、審議の結果、了承された。

2．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）への成績評価ガイドラインに関する表記の追加について

学長から、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）への成績評価ガイド

ラインに関する表記の追加について諮る旨が述べられ、次いで、丸山理事から、資料に基づき、認証評価の対応として教育課程編成・実施の方針への成績評価ガイドラインに関する表記の追加が必要であること、各学部の教育課程編成・実施の方針(案)の説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

3. その他

なし

報 告

1. 平成31年度における役員の業務分担について

学長から、資料に基づき、平成31年度における役員の業務分担について報告があった。

2. 平成31年度における学長の補佐体制について

学長から、資料に基づき、平成31年度における学長の補佐体制について報告があった。

3. 教員人事について

学務部長から1件(教員養成支援センター)、教育学研究科長から1件、理工学部長から2件、資料に基づき、教員人事について報告があった。

4. 役員会報告について

学長から、資料に基づき、役員会(第515回)について報告があった。

5. 経営協議会報告について

学長から、資料に基づき、経営協議会(第63~65回)について報告があった。

6. 学長・副学長会議報告について

学長から、資料に基づき、学長・副学長会議(第143~145回)について報告があった。

5. 入試結果の報告について

丸山理事から、資料に基づき、入試結果の報告について、平成31年度入学試験実施状況(学部・大学院の入学手続者数・充足率)の報告があった。

6. 入試委員会報告について

丸山理事から、資料に基づき、入試委員会(第7~8回)について報告があった。

7. その他

1) 佐々木理事から、資料に基づき、国立大学を取り巻く状況について、以下について

報告があった。

- ・ 18歳人口については、2017年は120万人であったが、2040年には88万人（現在の約74%）と予測している。また、大学進学者数については、2017年は63万人であったが、2040年には50.6万人（現在の約80%）になると予測している。
- ・ 平成28年の18歳人口に対する大学進学率については、全国平均は52.6%であるのに対して、岩手県は37.3%であった。また、同年の岩手県における県外からの流入（1,271人）に対する県内からの流出（3,425人）の差は2,154人であり、自県進学率は25.7%であった。
- ・ 岩手県における大学進学者数については、平成28年の大学進学率と同率と仮定した場合、平成28年は4,612人であったが、平成45年には3,177人、岩手県内の大学入学者数は1,856人で岩手県内の大学入学定員充足率は76.8%になると予測している。
- ・ 今後文部科学省では、国立大学について18歳人口の減少を踏まえた定員規模の検討を行う予定であり、今年の夏から秋にかけて各大学と意見交換を行う予定とのこと。それを受けて、本学としては大学院機能の充実を考える必要がある。
- ・ 岩手の高等教育の在り方を考える「地域連携プラットフォーム」については、今年の6月以降にWG開催に向けて準備を進めていく予定である。

2) 学長から、学長選考会議委員について、学部選出の委員のうち今年度末で欠員となる学部は、次回の評議会において委員候補者を推薦願いたい旨の要請があった。

また、学長から、評議会委員の終了（退職・任期満了）について報告があった。

学長から、次回の教育研究評議会を、4月25日（木）の15時から開催することが述べられた。